

■ 壁付けハンドレール

階段脇に壁がある場合など、壁から直接腕木を出してハンドレールを取付ける方法があります。長尺ハンドレールやレールエンドなどの組合せ方は前ページまでと同様です。

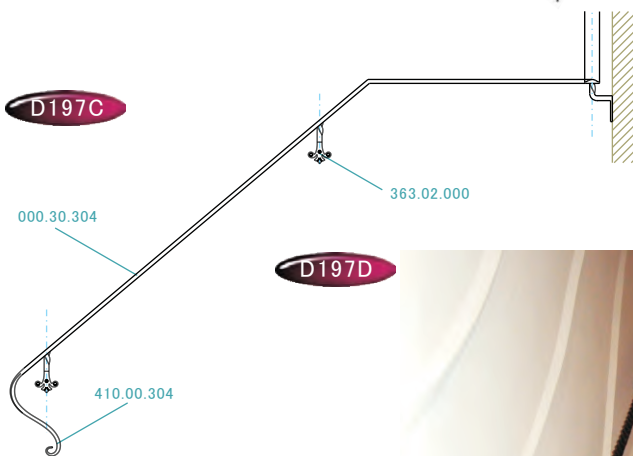
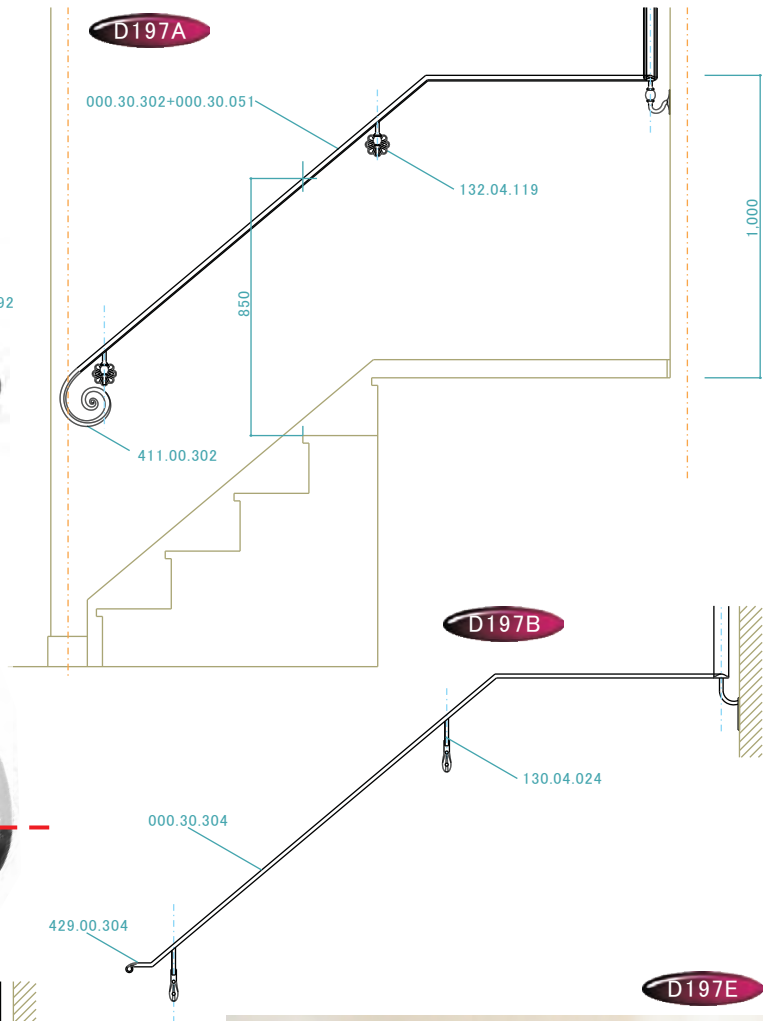
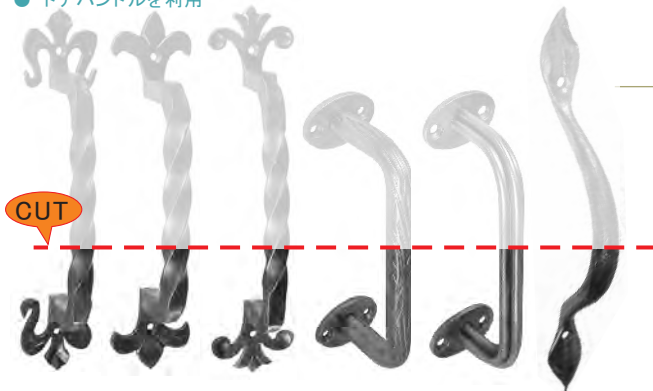
腕木(サポート)にはレッキーマタルの「持ち出し用ブラケット」が手軽で便利です(図D197A,D197B)。

● 持ち出し用ブラケット



また、ドアハンドルの一部を利用して、同じような効果の出るものもあります。(図D197C)。

● ドアハンドルを利用



その他、ベースプレートやローゼット類と、いろいろな長尺材を組み合わせれば、腕木として利用できます。壁からの離れ寸法も自由に設定できます。

ハンドレールやレールエンドにこだわらず、模様つきの長尺材や剣先、ギボシなどを応用しても変わった表現が出来ます。写真D197Dの例では、先端に真鍮製ギボシ041.96.000を使い、ハンドレール部にはツイスト材000.30.133を使用しています。



Lecky

デザインブック

PART 2

パーツの応用・加工と特殊パーツ使用法



■ たて子パーツを他のアイテムに流用したり、ローゼットをベースプレートに利用するなどのデザイン法をご紹介します。

■ パーツの一部を切取ってつなぎ直したり唐草を曲直したりして使う、多少高度なデザインもご紹介しています。唐草組みのデザインによく使われるデザイン技法です。

■ 門扉のパーツなどはよく理解してデザインしないとうまく機能しなかったり、取付け方によってはパーツが無駄になってしまうこともあります。そのような特殊なパーツの使用法を解説しています。

■ ロートアイアンの本場ヨーロッパに取材した事例写真を随所に挿入しています。

サインアームに利用する

袖看板(突出し看板)を吊るすためのアームには、古くからロー
 トアイアンがよく使われてきました。図D201Aはザルツブルグ
 (オーストリア)旧市街の店舗看板で、看板本体(サインフェ
 ース)と腕木部(サインアーム)と補助パーツで構成されているのが
 よくわかります。

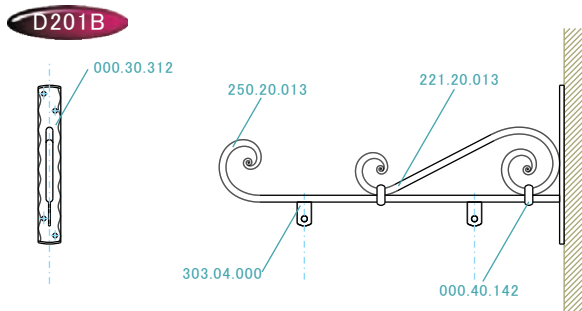
レッキーマタルでも数種類の組立済みサインアームが発売され
 ています。

アームは腕木、サポート、ベースプレート、大きくわけて3
 種類の部分で構成されていますが、それぞれにレッキーマタルの
 パーツを選択、応用することで、さまざまなパターンのサイン
 アームをデザインできます。3種類の部分のほか、サインフェー

スを吊るフックや、振止めなども必要に応じてレッキーマタルの
 パーツを利用できる場合も多いですから、いろいろなパーツの組
 合せに是非チャレンジしてください。

■ 簡素なサインアーム

図201Bは、最も少ないパーツ構成で組上がるサインアームの例
 で、各パーツを溶接で組立てて行くだけです。目立ちがちな溶接
 部も一手間掛けてバンド巻きで隠してしまえば、シンプルながら
 ロートアイアンらしさを容易に引立たせることができます。



図D201Cと図D201Dの腕木には、たて子のパーツ
 が利用しており、その先端には剣先やボールを付け
 ました。フックの受金具には、チェーンの一部や曲加
 工済バンド材をカットして流用しています。

ベースプレートも、いくつかのパーツを寄せ集めて
 構成しています。

レッキーマタルのパーツを組合せていけば、アイ
 ディア次第でたくさんのサインアームがデザインでき
 ます。



■ 振れ止め



袖看板(突き
 出し看板)は、
 風の通り道に
 直角に突き出
 しているため
 風の抵抗をま
 とくに受け、
 縦に細長い支
 持になること
 の多いベース
 プレートだけ
 では取付ネジ
 が緩むなどの
 支障が出ます。
 対策として

て、ページ右上の図D201Aのようにアームの先端
 近くから斜め上方向に向かって左右2本の支持棒
 とターンバックル等で引張る方法がよく用いられ
 ます。振止めだけでなく、看板の重量を負担分散
 する効果もあります。壁面に取付可能なスペース
 がある限り、振止めを付けてください。

建物の角などに設置するなど、振止め1本で支
 持する場合には、ターンバックルなしで、なるべく
 水平方向で突っ張り、アームと壁にはビスなどで
 しっかり固定する方法を取ります。

D201A



吊り金具など
 腕木からサインフェ
 ースを吊るす。

サインフェース
 看板本体。

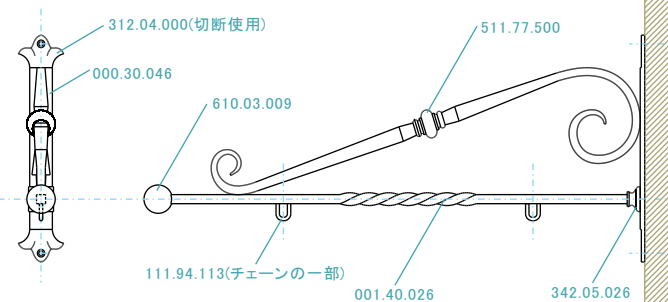
振止め
 サインアームが風で
 揺れるのを防ぐ。

腕木
 サインフェースの
 重量を支える。

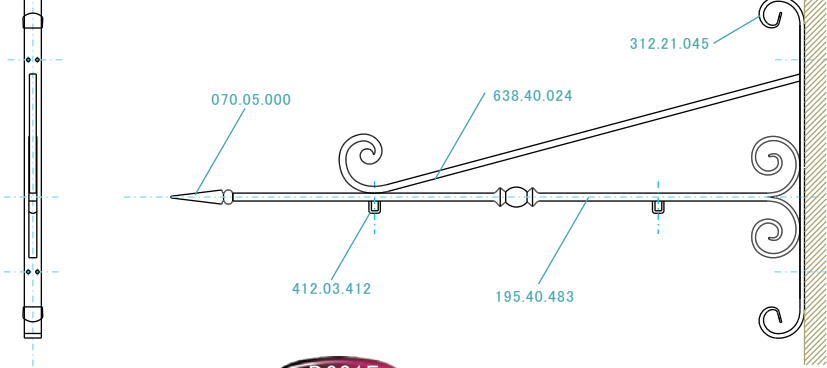
ベースプレート
 建物の壁に取付ける。

サポート
 腕木とベースをつない
 で補強する。

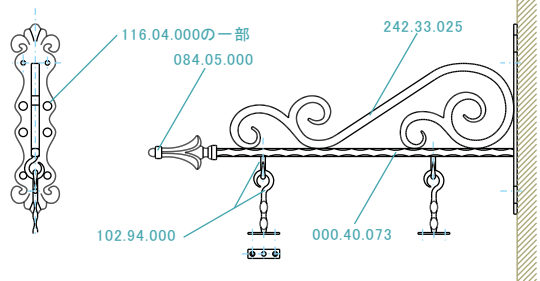
D201C



D201D

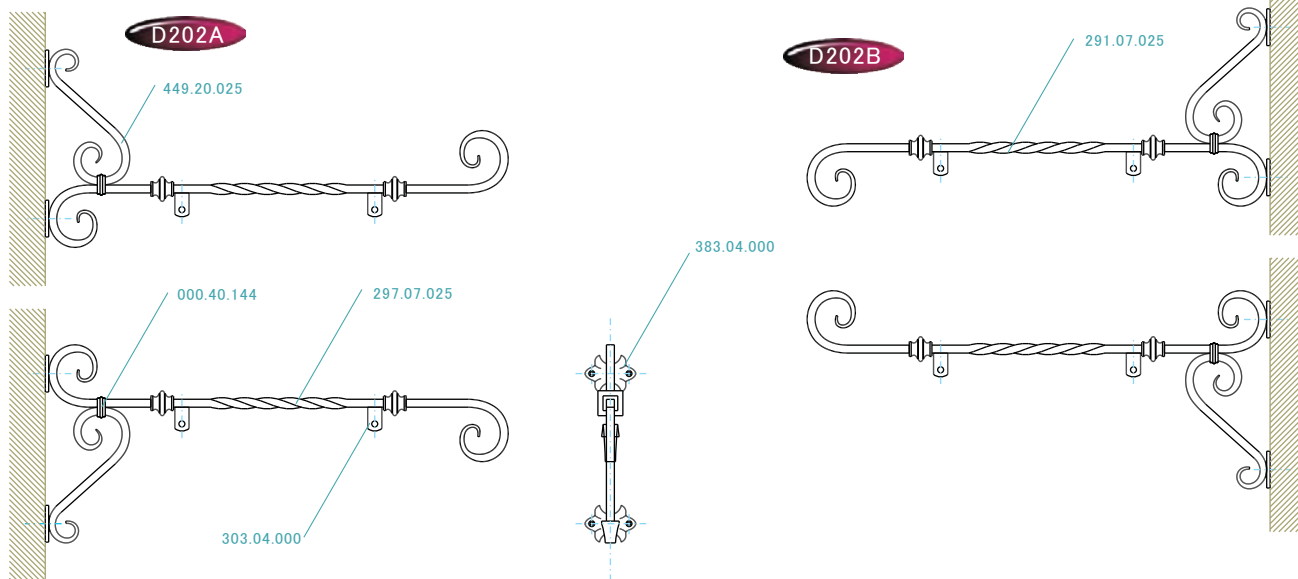


D201E



図D201Eでは、ベースプ
 レートと吊金具に注目して下
 さい。サインフェースを吊るす
 フックに、102.94.000という吊
 フック一本を切断・分割して利
 用しています。ベースプレート
 は116.04.000というヒンジの溶
 接を外し、ベースプレートのみ
 を利用しています。手間やコ
 スト的にはやや難がありますが、
 パーツの応用方法の一
 例としてご紹介いたします。

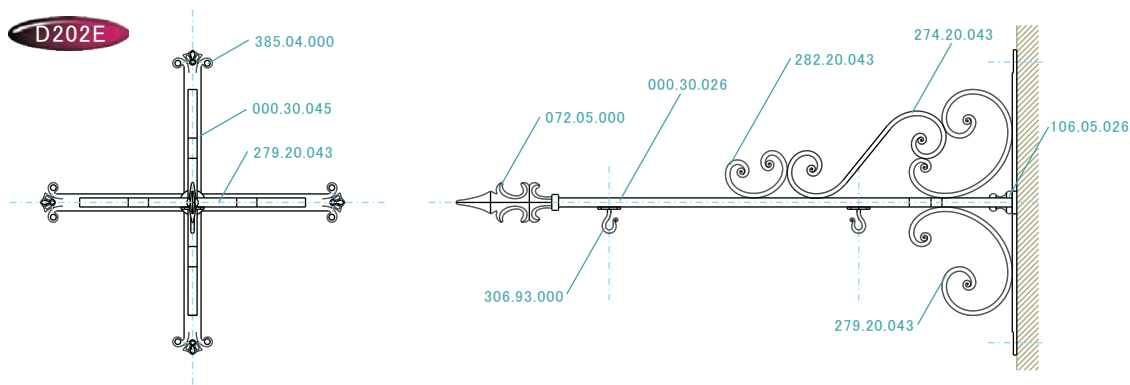
■ 簡素なサインアーム (2)



図D202Aから図D202Cまでは、両端が唐草のたて子と、同断面のS字唐草を組合わせた例です。たて子のバリエーション3種類と、唐草が上付きか下付きかで、計6種類のデザインができました。軽量のサインフェイス向きです。振止めは必須となりますので、設置場所の条件に合わせて、アーム先端近くから斜め上方向へ取ってください。

ベースプレートは縦長の一本物ではなく、唐草の接点に小型のパーツを上下2か所付けました。

写真D202D、図D202Eのように水平方向にスペースを取れる場合は、十文字のベースプレートの四方に唐草サポートを付けることで、振止めを省略できます。



■ サインアーム形の応用

サインアームの形から連想して、他の用途に応用した例があります。まず1つ目は、写真D202Fのような「物干し金物」です。物干し竿を受ける金物に087.10.024を使いました。バルコニーなどを物干しに利用している場合、洗濯物を干していない時に無機質な物干し金物が結構目立ってしまうものです。使っていな

い時にも装飾として成り立つこのような使い方は是非ご検討ください。

101.04.000等のヒンジを組込むことで、使用時以外に壁側に折りたたんで、バルコニーを広く多目的に活用できるスペースを確保出来るようになります。

もうひとつは、ハンギングバスケットのブラケットなど、園芸分野での応用も可能です。取付ける壁や柱の強度が十分であれば、大きさや重さに対応できるデザインが可能です。

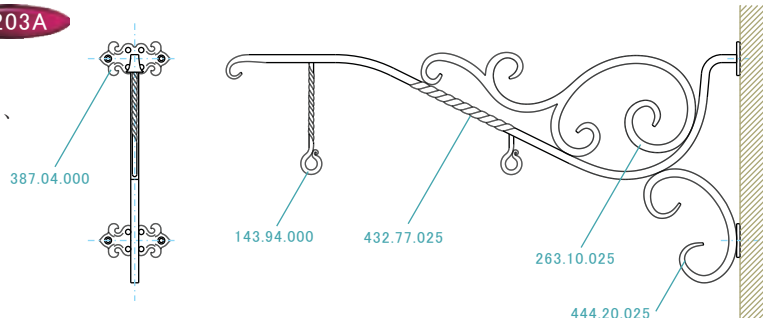


■ アームに唐草パネルを使う

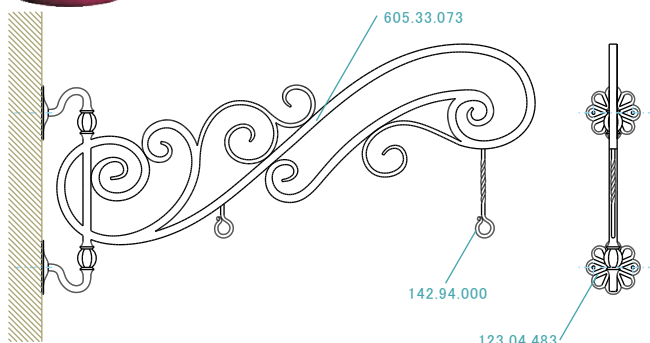
唐草パネルはすでにいくつかの唐草を組んで出来ていますので、サインアームに利用すると少ないパーツ数でも存在感を出せます。また、アーム自体が装飾の要素を持つことが多く、サインフェイスが簡素でも全体で華やかな感じを持つ突出し看板をデザインできます。

図D203Aはバルコニー用立て子とそのサイドパネルの組合せをそのまま横に寝かせてデザインしました。吊金具はフック用パーツ一本をふたつに分けて使っています。

D203A

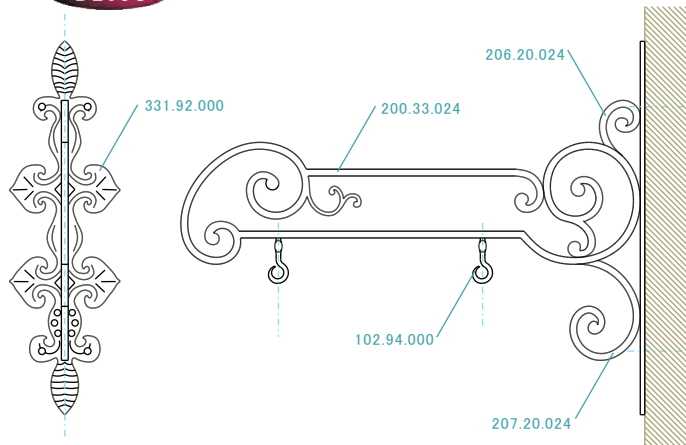


D203B



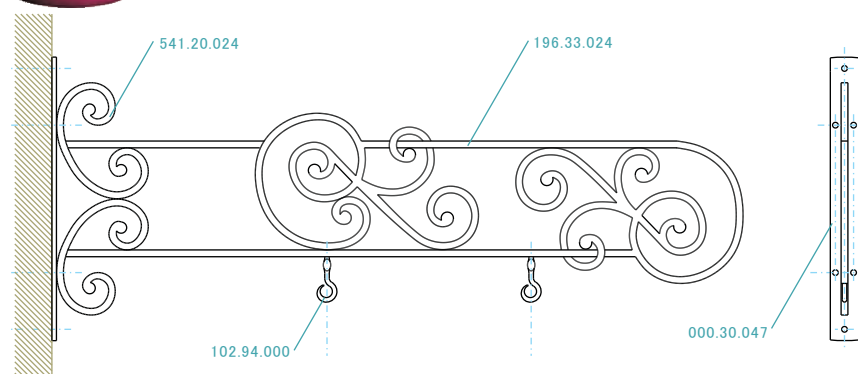
図D203Bでは唐草パネル自体で腕木の機能も供えているようなデザインです。ベースプレートまわりには「持出し用ブラケット」を流用しています。パーツ3種類、たった計4点のパーツで組上げることが出来ます。

D203C



図D203Cも腕木の機能を唐草パネルに持たせています。ベースプレートはサインアーム用オーゾックスに使っています。

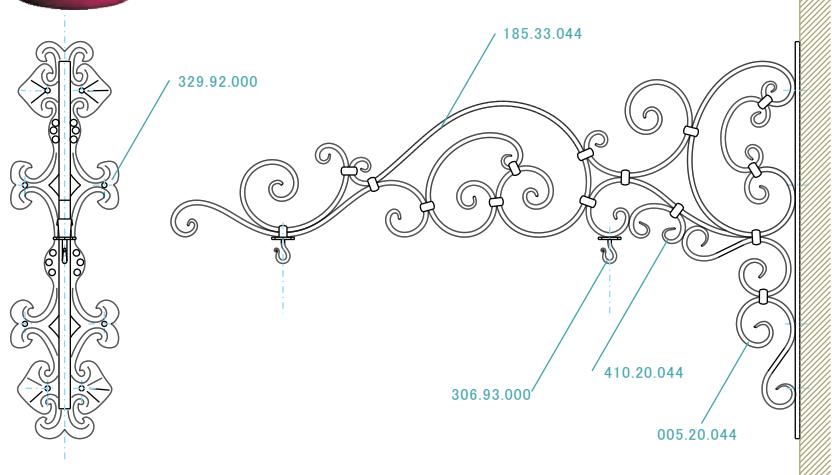
D203D



図D203Dではベースプレートに接する根元の部分に、唐草パネルと同じ断面の唐草を入れて補強としています。中間、先端の唐草とバランスをとる効果も出ました。

図D203Eでは、唐草パネルの強度が弱そうな所に同断面の唐草を配して補強し、直線的な横線を省いてしまいました。付加した唐草にも同じ形状のバンドを巻いて、全体のバランスを損なわないようにしています。

D203E

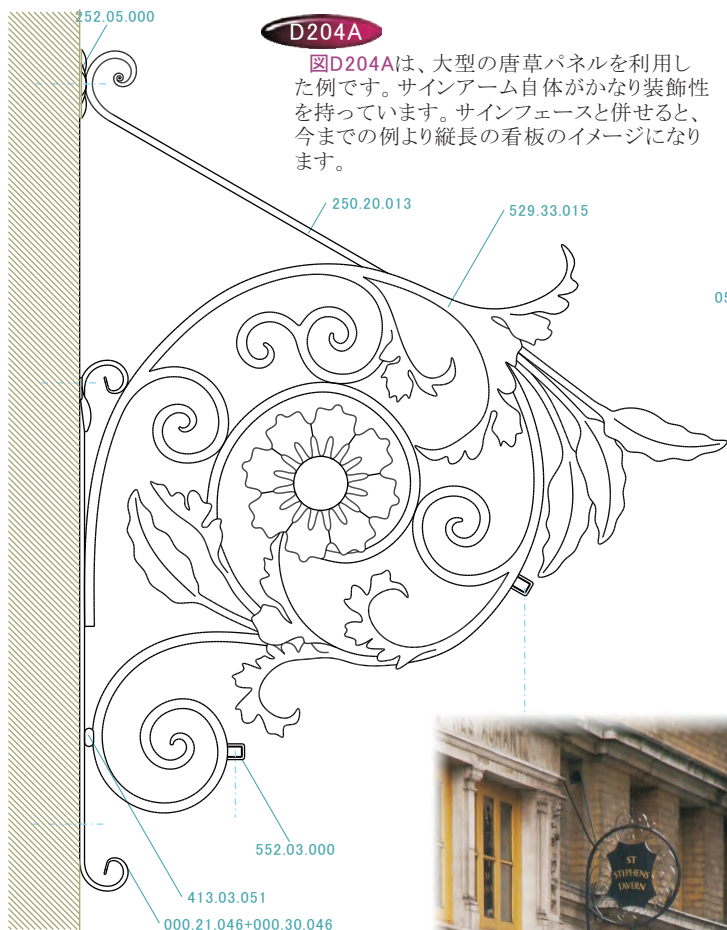


D203F

この写真はサインアームと同じような腕木に、看板ではなく照明具が吊り下げられています。

D204A

図D204Aは、大型の唐草パネルを利用した例です。サインアーム自体がかなり装飾性を持っています。サインフェースと併せると、今までの例より縦長の看板のイメージになります。



唐草パネルの一部を削除すると、サインアームに適した形状になる場合もありますので、いろいろチャレンジしてみてください。
図D204Dは、オリジナルの039.88.119から右下部の唐草を取去って一本吊りのサインアームにした例です。切取った部分を移設して再利用すると補強にもなります。

一本吊りの場合、サインフェースが風を受けると不規則な方向へ揺れますので、サインフェースにも振止めをとる、あるいはサインアームと締結してしまう等の対策をとることをお勧めします。



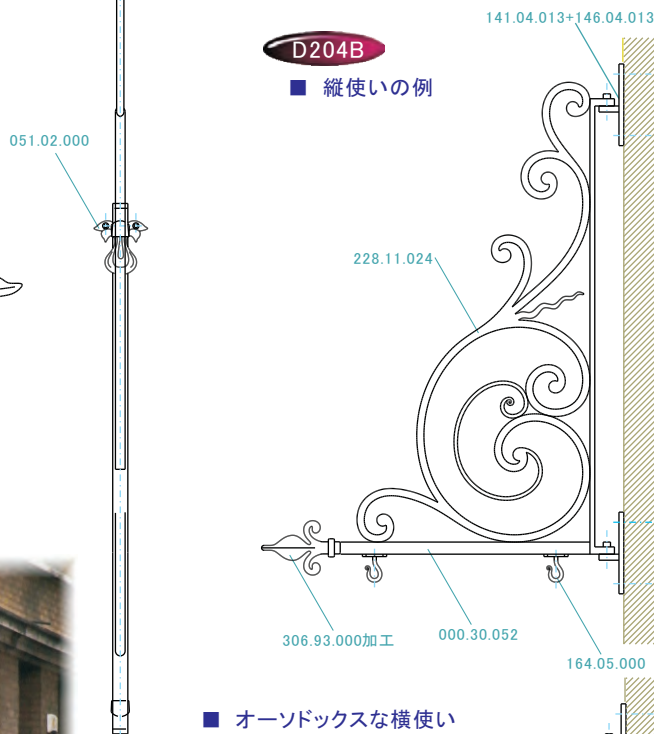
D204C

■ 照明器具が一体になっている
突出し看板

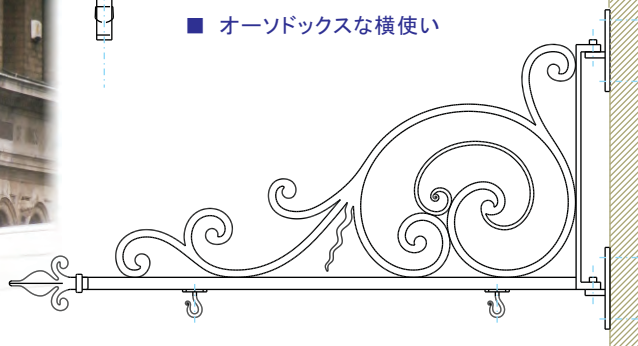
アーチ用の唐草パネルは通常の横使いのほか、縦使いにしても違ったイメージになります。看板の突出し巾がとれない場合や縦長を強調したい看板に効果的です。図D204Bに縦使い横使いのイメージの違いを示します。

D204B

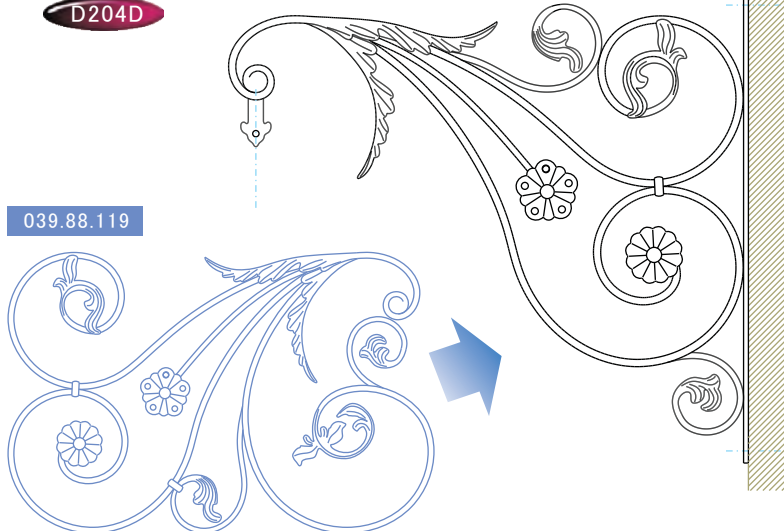
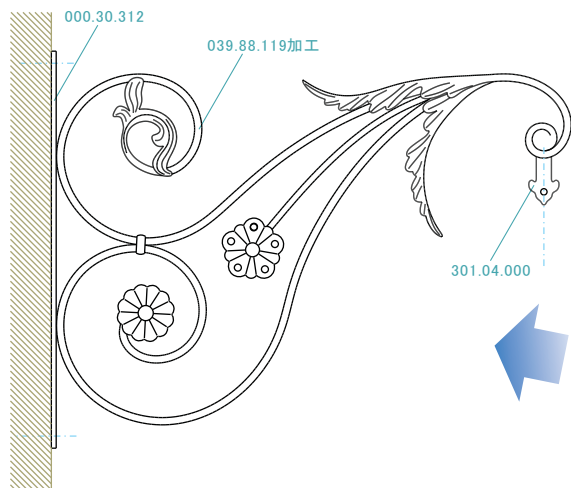
■ 縦使いの例



■ オーソドックスな横使い



D204D



窓格子に利用する

外部からの侵入者を防いだり、部屋からの転落防止の目的で、窓に取付けられる格子状または手すり状のものの総称です。窓の大きさは大小様々、縦横の比率もバラバラなので、ピッタリの既製品を探すのは難しいものです。パーツを組んで作るロートアイアの技法でオーダー製作すれば難なく解決してまいります。

1階の窓は防犯の要素が高いので全面を覆うタイプ、2階以上の窓には転落防止や花を飾る用途が主となるために手すりタイプや花台が付いているのを、ロートアイアの本場ヨーロッパの

建物ではよく見かけます。

ロートアイア技法の場合、四方枠がまずあってその中が装飾格子になっているといった日本で一般的に考えられているデザインにこだわる必要はありません。縦横と横横または同等の効果のある装飾が、窓格子としての用途を満たせばデザインは自由です。

レッキーメタルのパーツの多くが、このような窓格子のデザインに有効にお使いいただけます。

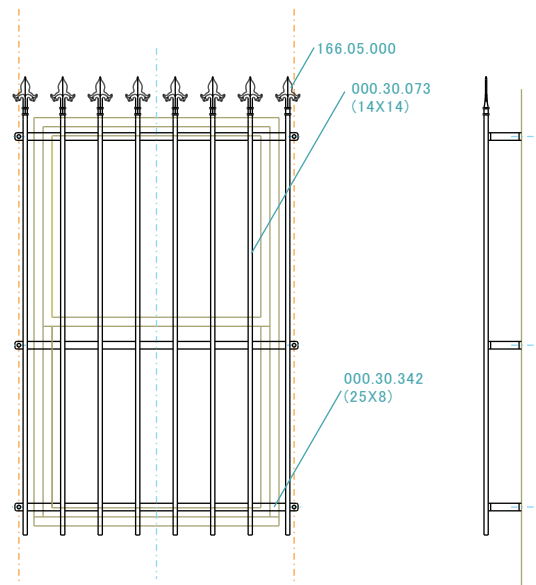
■ 窓格子の種類

● 窓格子(狭義の)タイプ

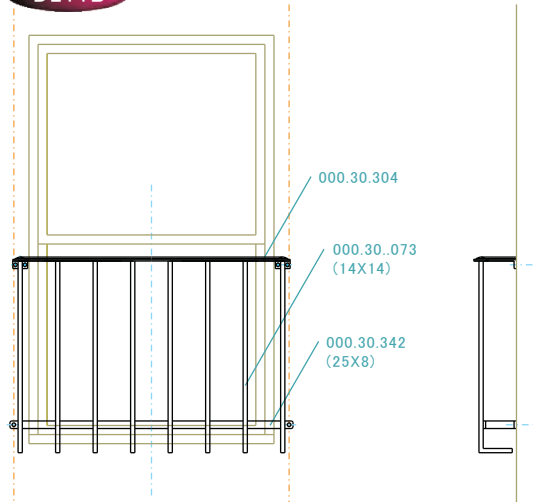
図D211Aは、レッキーメタルのパーツを最もシンプルに使った、窓全面を覆うタイプのデザインです。狭い意味で「窓格子」または「窓グリル」と言った場合はこのタイプを指します。

縦方向の長さが1,200mm以上になるような場合で、縦横に12mm,14mmといった比較的細い材料を使う場合、中ほどに横横または同等の効果のある装飾が、強度上必要になります。

D211A



D211B



● 窓手摺タイプ

図D211Bは、「窓手すり」などと呼ばれる手すりタイプの格子です。2F以上の窓にに使われることが多く、下から見上げることを考えて、たて子の下部を壁際まで折り曲げてみました。

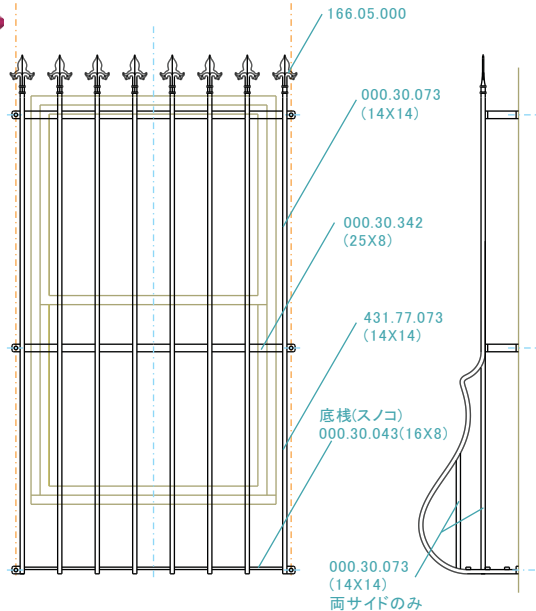
幅が1,500mm以上になるような窓に取り付ける際は下部中央あたりにもベースプレート配して、強度を保つ必要があります。

また、ハンドレールの高さは、室内の床基準で安全と思われる高さを割り出すと安心できます。

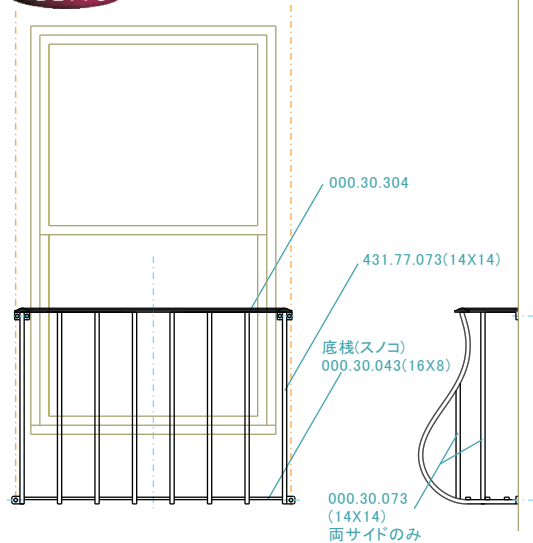
● 鉢置きスペース付タイプ

図D211Dは、全面を覆うタイプの窓格子に、草花の鉢を置くスペースを付加しました。こちらの例ではバルコニー手すり用たて子の寸法を詰めずに使用し、同形棒をつないで上に延長しています。

D211D



D211C



● 花台タイプ

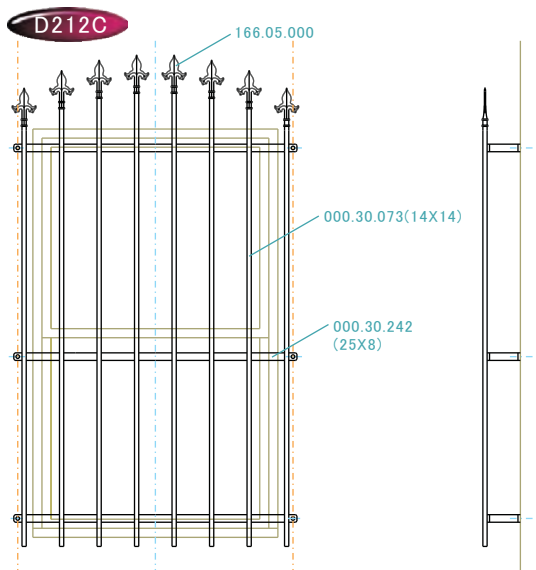
図D211Cは、「花台」とも呼ばれるタイプで、図D211Bを前に張り出して、草花の鉢を置くようにしたものです。そのために、たて子はバルコニー手すり用のたて子から選定し、上をカットして使用するデザインにしました。側面にも直棒のたて子をいれて不意なアキが出ないようにしました。

前述の注意点に加え、水を含んだ鉢の重さに耐えられる取付方法、例えば取付ネジを太くしたり、カ所数を増やしたりして、状況に応じた対策を取って下さい。

■ 窓全体を覆う窓格子

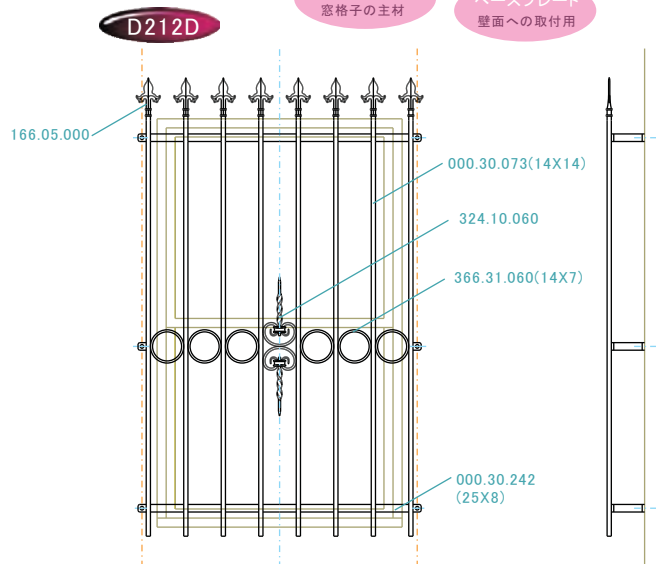
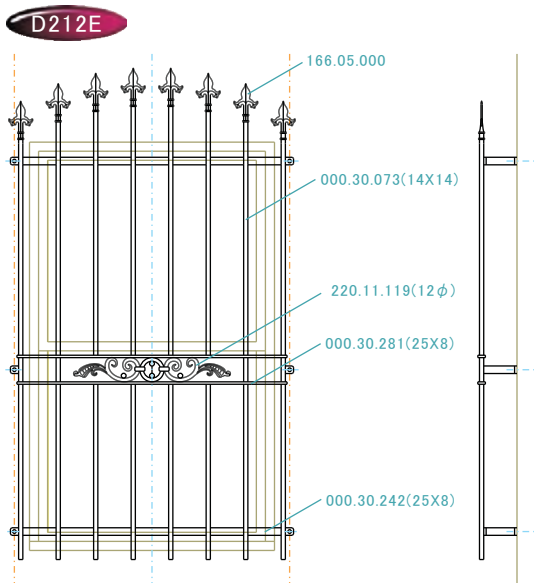
窓格子という写真D212Aのような、格子模様を外枠で囲った形をよく目にします。ロートアイアン技法の場合はパーツを組上げていくので、特に外枠が必要ではありませんから、写真D212Bの例や以下の図例のように自由度の高いデザインが可能となります。

D211ページの図D211Aをもとに、デザインのバリエーションを見ていきましょう。

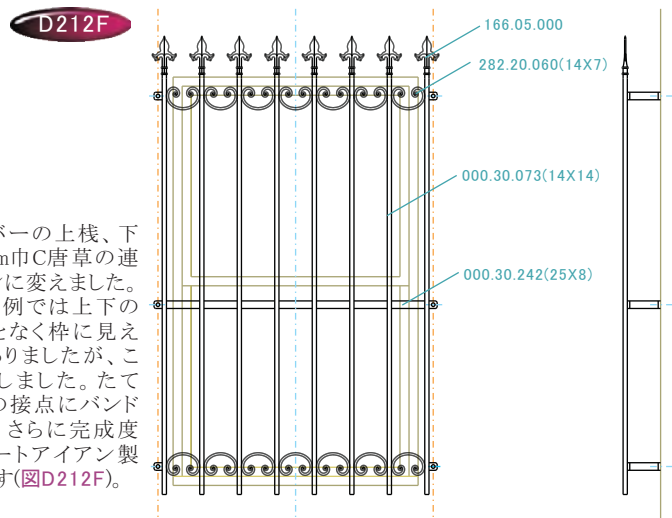


図D212Cでは、たて子先端の剣先をアーチ形に揃えて、柔らかいイメージを出しています。それぞれのたて子の長さを変えるだけでアーチ状の表現が簡単に出来ます。もし外枠方式なら、上枠をアーチ形にR曲げしたり、たて子の上端を角度切りするなどの手間が格段にかかります。

図D212Eは、中棧を2本使いにして、唐草パネルを挟み込むデザインですが、剣先のアーチとのバランスも取れてよい感じになりました。さらに2本の中棧を壁側に延長してベースプレートでつなぐなどすれば、もう一段完成度を上げることができます。

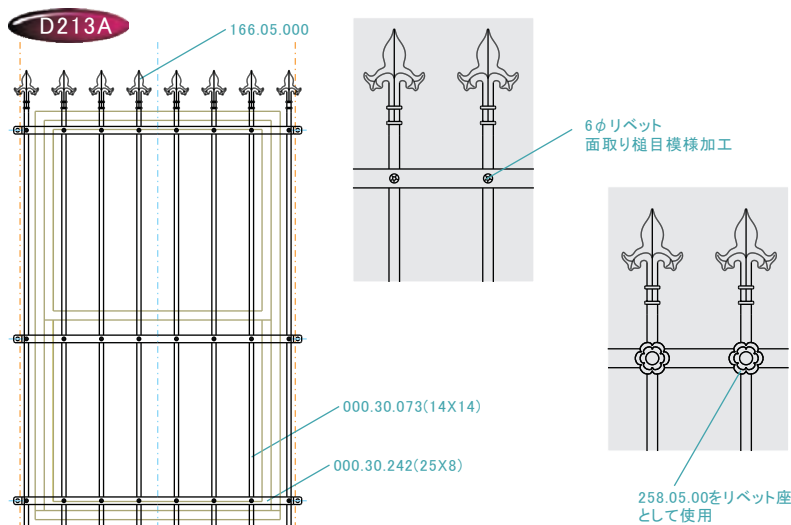


フラットバーの中棧を110mm巾パーツの連続パターンに変えました。部屋の中から見ても装飾性が映えます(図D212D)。



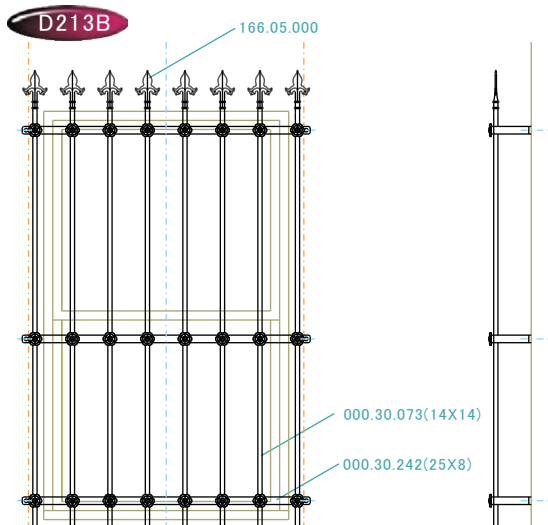
フラットバーの上棧、下棧を110mm巾C唐草の連続パターンに変えました。今までの例では上下の棧がなんとなく枠に見えた感じもありましたが、これで解消しました。たて子と唐草の接点にバンドを巻けば、さらに完成度の高いロートアイアン製品となります(図D212F)。

D213

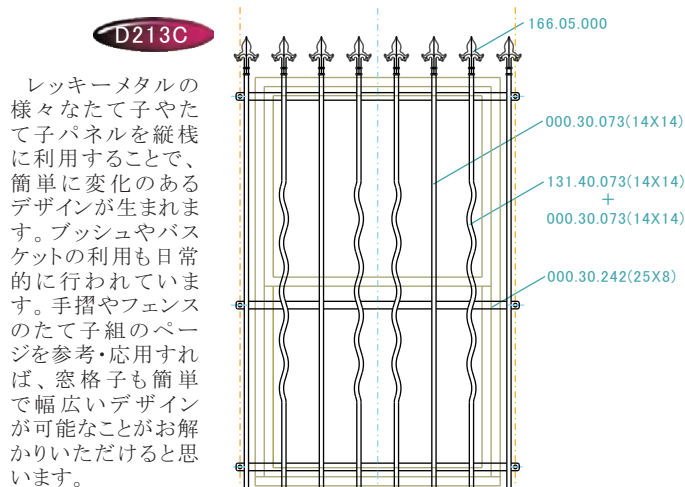


図D213Aは、縦棧と横棧の交点にリベット止で少し伝統的な雰囲気を出しました。溶接のなかった時代のロートアイアン独特の接合方法でしたが、いまは目立たないところで溶接して組んでしまい、リベットを飾り鉄的な見せ方をする場合がほとんどです。窓格子に光が当たったときの一味違う美しい効果が生まれます。

図D213A,D213Bでは、横棧が縦棧より前面にくる重なり方になっています。



図D213Bも、縦棧と横棧の交点をリベットしていますが、小さなローゼットを座金的に使って、少し装飾的な強調をしています。模様のパーツを組込まなくても、接合部のリベットやバンドをうまく活用して、シンプルかつロートアイアンらしさに溢れるデザインが可能です。



レッキーマタルの様々なたて子やたて子パネルを縦棧に利用することで、簡単に変化のあるデザインが生まれます。ブッシュやバスケットの利用も日常的に行われています。手摺やフェンスのたて子組のページを参考・応用すれば、窓格子も簡単に幅広いデザインが可能なお解かりいただけだと思います。

